新宿区立漱石山房記念館　令和３年度第２回運営学術委員会

議事概要

開催日：令和４年３月９日（水）書面開催（意見等締切３月23日）
出席者：13名
半田昌之会長、中村廣子副会長、大木志門委員、大木真徳委員、佐藤裕子委員、松下浩幸委員、山岸吉弘委員、鈴木達也委員、吉川友子委員、松澤亮委員、鈴木靖委員、小泉栄一委員、北見恭一委員
欠席者：２名
山口進委員、宇山幸宏委員
事務局：菊地加奈江(文化観光課長)、北村こころ(文化資源係長)、久米美弥子（文化観光課学芸員）

議事要旨

◆令和４年度の事業計画について

・現状においては、感染対策の徹底が重要で、消毒を徹底することを前提に接触型の展示装置等は使用を再開する施設が増える傾向がある。また、状況が悪化しても極力開館しながら社会基盤として博物館の役割を果たすことが期待されている。
・事業計画策定に当たっても、苦心が多い事業展開が予想されるが、全体としてよくまとまった計画が策定されていると思う。
・展示会については、テーマ的バランスが取れた構成だと思う。充実した内容の展示を期待する。
・そのためにも、事業を支える学芸員の体制の充実は不可欠である。昨今は順調に体制が整備されつつあると理解しているが、今後は、関連する博物館や研究機関との共同調査や研究、交流、また、博物館関連の研修プログラム等への積極的な参加等、人材育成への取組を一層期待したいと思う。
・講座をはじめとするイベントについては、感染拡大の状況によって、オンライン環境等を活用し、できるだけ実施できる工夫をしていただきたいと思う。
・コロナ禍の下で、多くの博物館が、オンライン等による事業展開で、施設に来館できない利用者への情報発信に力を入れている。
・こうした取組みは、コロナ禍で急速に注目されてきたが、今後の中長期的な博物館事業の展開においても、博物館の利用者層を拡げるために、重要な取組みとなることは確実である。
・こうした方向性にしっかり対応するためにも、所蔵資料はじめ調査研究情報のデジタ

ル化とアーカイブ化を今後の事業の中にしっかりと位置付け、魅力ある発信の充実を図ることは、記念館の発展に不可欠と思う。
・テーマ展示「『道草』の草稿」は、当時の掲載紙から成立過程がのぞけることが非常に興味深い。
・テーマ展示「絵本、絵巻で見る『草枕』の世界」は、これまでの展示と異なり柔らかでユーモアが感じとれる理解しやすい展示になると楽しみだ。
・特別展「漱石と芥川」は、師と仰ぐ漱石との交流や励ましによって作家としてのスタートを切った縁にふれることができそうで興味深い。
・テーマ展示「ああ漱石山房」は、漱石山房の保存にも心を砕いた松岡譲の深い想いが感じられる展示になることに期待する。
・ギャラリートークは、担当学芸員による解説は内容を理解するための良い機会となるので、開催日のアナウンスを積極的に実施してほしい。
・夏休みイベントは、午前の部・午後の部、あるいは日を変えて２回程度実施できると学校行事やプール指導など考慮し、便宜を図るなどできる。
・講座・文学さんぽは、受講・参加した方が今後の記念館を支える人材になると思う。
・アニメ・漫画を活用したイベントは、視覚に訴え、特に子どもや若年層の人々への発信ツールとして、とても良い企画と思う。
・情報発信イベント、５周年記念イベントは各種の手段で広く発信、配信を期待する。
・資料購入や調査などの計画も教えてほしい。
・ボランティア事業については、新型コロナ感染症の影響で十分な実施ができていなかったと思うが、そろそろ今後の展開を検討しておく必要があるかと思う。受入れ・養成を含め、ボランティア事業の今後の見通しについてどうか。
・図書室の運営については、具体的な計画等を策定しているのか。選書基準等の図書室を運営する上で基本的な指針に加え、感染対策上の取り決めなどがあったら教えてほしい。
・前回の運営学術委員会で意見が多数あった小学生や中学生に興味関心をいただいてもらうという観点から、「夏目漱石コンクール」は重要な位置付けにある。
・また、地域の早稲田小学校や牛込第二中学校と連携した事業があれば、更に意義深いものとなる。
・「地域住民のための…」というような観点から記念館の存在を発信できれば、区の魅力がより向上するのではないかと考える。
・様々な角度から興味深いテーマを選ばれていると感心する。後期の『道草』は、読み続けるのもつらいような人間の心の深奥をつきつけられる。そして初期の漱石の真骨頂を如何なく発揮している『草枕』の伸びやかな世界を絵本、絵巻というのも嬉しい企画で楽しみだ。
・漱石は後輩の制作の後押しをし、同好の人々の交流の場も提供したのが大きな業績か

と思うので、特別展の芥川龍之介との邂逅、交流は漱石晩年のわずかな期間とはいえ大変興味深いテーマだ。

・記念館のホームページ情報がとても充実されてきている。ただ内容が多岐にわたるせいか、なかなか辿りつけないことがある。さらに工夫が必要だ。

・ホームページに常設として漱石の作品の音声のみの朗読のコーナーがあるとよい。

・開館から４年を経て、年間の活動内容がある程度安定してきたことが、事業計画からも感じられる。

・展示会では、いよいよ漱石作品の世界を紹介するテーマに乗り出すようになり、新たな段階に踏み出したと感じられる。しかし、この分野を掘下げていくことは作品の十分な理解と近代文学界の研究の動向等に通じた高度な専門性が必要になってくる。これまで通り、テーマに見合った研究者を監修や協力者に迎えるなどして、底の浅い内容にならないよう注意することが必要だ。

・漱石や文学の愛好者だけをターゲットにすることのないよう、誰でも注目するような展示タイトルを考慮することが重要であることは、この委員会でもたびたび指摘されてきた。具体的には「夏目漱石」や「漱石」という文字をタイトルに入れることが、この記念館としては大切だとの指摘だ。４年度の展示タイトルを拝見すると、その点は希薄で、サブタイトルに工夫が必要だと思う。

・年４回の展示会は、４本ともに企画物であり、現在の学芸スタッフで年４回をまわすことはかなり苦労があると思われ、展示の質の低下や学芸スタッフの疲弊を招くことも懸念される。今後は、所蔵資料や複製品を活用した通常展（準常設）の充実を目指し、企画物の本数を抑制することが望ましい。

・記念館に多様な来館者を呼び込む工夫としては、講座・講演会の充実が望ましい。比較的準備の労が少なく、講師の顔ぶれによっては、新たな来館者を呼び込める。

・開館５周年を迎えるにあたり、ひとつの区切りとしてこれまでの４年間の評価や総括を十分行うことで、１０周年に向けた新たな出発点とすることが大切だ。

〈事務局回答〉

・コロナ禍における記念館の運営や催事の開催については、国の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」やこれに基づく東京都の通達、公益財団法人日本博物館協会による「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」等を踏まえ、区の新型コロナウイルス感染症対策本部の決定に基づき実施している。具体的には検温・消毒等の基本的な感染対策のほか、講座・講演会等の定員の制限、オンライン配信の活用等を行っている。

・資料購入については、「新宿区夏目漱石記念施設整備基金」を運用しており、これを、資料購入・資料修復・複製品製作にあて、区と記念館で協議しながら進めている。資料購入については「新宿歴史博物館等の収蔵資料に関する要綱」により設置される「収

蔵資料選定委員会」の決定を経て購入している。調査については、予定される展示会の企画、開催に要する調査が中心となるが、半藤家から寄贈された松岡譲関係資料については質量ともに大きく、継続的に調査・整理を進めている。

・ガイドボランティアについては、新宿歴史博物館と４記念館で活動しており、現在 134 名が登録している。このうち漱石山房記念館で活動する方は 59 名である。コロナ禍で活動を休止していたが、令和４年度からは適切な感染対策を講じた上で、一部活動を再開していく。展示ガイドについても社会的距離の確保、ガイド時間の制限等を行った上で再開する予定。今後も、他館の事例等も調査し、無理のない活動とすることが必要であると考えている。

・図書室の運営については、特に運営計画等は策定していない。選書については、漱石とその門下生に関わる書籍について購入している。また著者等から寄贈される書籍についても受け入れている。感染対策については、施設入館時の検温・消毒・連絡先の記入に加え、図書室入室時にも消毒をお願いしている。また図書室内の消毒を適宜行っている。

・学校との連携については、地元の早稲田小学校や牛込第二中学校と連携を行ってきた。前回の運営学術委員会でのご意見等も踏まえ、区内の小中学校に積極的に働きかけるため、校園長会で説明を行った。今後も定期的に記念館の活動について説明していきい。また、記念館が所在する榎町地区では「夏目漱石暗唱コンクール」が開催されており、区では参加賞や発表の場を提供する等、連携・協力をしている。